

# 書道 I

教科	科目名	単位数	学年・コース	教科書名	副教材
芸術	書道 I	2	2年 一般文系	『書道 I』 教育図書	自作プリント

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 中国・日本の文化に触れ豊かな感性を磨く。</li> <li>* 「書道」とは字の練習「習字」ではなく、文字を題材にした造形芸術であることを理解する。</li> <li>* 出来るだけ多くの書体に触れ、その集大成として自分流の書表現で作品を作る。</li> </ul>
学習の進め方	当日の課題についての解説を行う。その後各自で練習をすすめながら教師の指導を個別に受ける。毎時間課題作品の提出が義務付けられている。
評価対象・方法	毎時間ごとの提出物を評価し、その累積点で学期の評価をする。
受講に向けての心構えと準備	他の科目とは全くちがう分野で、自分の能力と向き合うことができる良き機会である。楽しさと充実感を味わってもらいたい。

	学習事項	学習内容	備考
一学期	各書体を練習する ≪楷書≫ 和 光 文 徳 宇 宙 能 方 一切衆生 始以武功 帝王之録  ≪行書≫ 太 陽 真実一路 松無古今色  ≪草書≫ 得能莫忘 非蓮性自	同じ楷書であっても、いろいろな特徴があることを知り、字形・筆使い・線質を経験する。 位置と大きさに対する留意を常に確認する。  出来るだけ途中で墨をつがず、その都度筆を直さず一気に書くことを目標にして練習する。  ニジミやカスレは「美」であることを理解する。 墨量の工夫。	
二学期	≪隷書≫ 沖 縄 首里城跡  ≪篆書≫ 琉球王朝 自分の名前  ≪篆刻≫ 印を彫る  ≪展示用作品の作成≫ 四字熟語	隷書という書体について、そして、それを表現するための蔵鋒という筆使いについて学ぶ。  小事典を見ながら、自分の名前を印で用いる字体に変えて表現し、篆刻の下書きとする。 前回の作品をもとに篆刻を行う。(篆刻とは印を彫ること)  ここまで各書体を練習した成果を生かし、展示用作品として残せるように表装する。  書作品において自分の名前は大変重要であることを学ぶ。 位置・大きさも重要課題として評価する。	
三学期	≪自己流に表現する≫ 玉雪 山高水長 万里寒光 風花雪月 敬神愛人 風花雪月 寿如金石	手本なしで書道辞典を参考に各自で工夫して作品をつくる。 書体・墨量・全体構成など芸術的センスを発揮したい。  空間を埋めるのではなく空間を残すという視点が作品作りでは重要。さらに同じ形・向き・大きさなど繰り返しを避ける。	